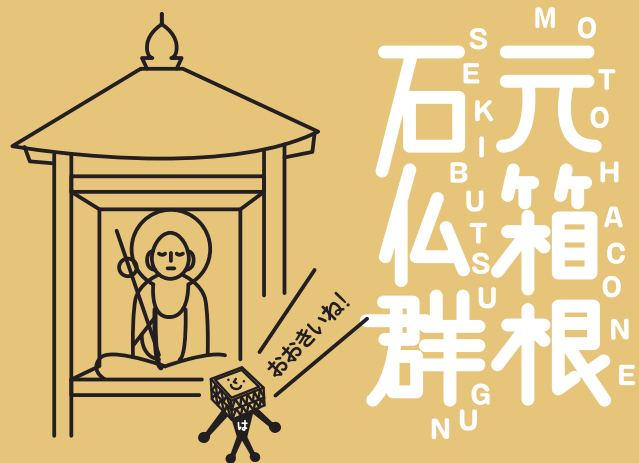


芦之湯温泉から国道1号を500mほどの歩くと右手に精進池が見えてきます。この池のまわりに多くの鎌倉時代の石仏や石塔があります。

鎌倉時代の歌人飛鳥井雅有がこの地を訪れたとき、「この山はぢごくとかやもありて…」と記しているように、鎌倉時代の人々は荒涼とした風景を地獄と考えていたのかもしれない。そのため、ここは「地獄に落ちた人々を救う」地藏信仰の聖地となっていました。

これらの石仏や石塔群は、国史跡や重要文化財に指定されています。壮大な石仏群を見学してみましょう。



- 1 石仏群と歴史館
- 2 六道地蔵
- 3 応長地蔵
- 4 八百比丘尼の墓
- 5 多田満仲の墓
- 6 二十五菩薩
- 7 曾我兄弟・虎御前の墓

全長 600m 所要時間約 30分

みどころ 六道地蔵

巨大な石に彫られた地藏菩薩像。その大きさは写真よりも実物を見てみましょう。地藏菩薩像だけで3.5mあり、外側の覆屋はなんと9.2m。だいたい3階建てのビルと同じ大きさです。

鎌倉時代の人々が谷のような場所にこのような大掛かりな建物を建てたことは驚きますね。



YOSEGI-Chan



箱根町文化遺産活性化実行委員会

〒250-0315

神奈川県足柄下郡箱根町塔之澤 74(福住楼内)

監修 箱根町教育委員会



はこね文化財ぶらりMAP



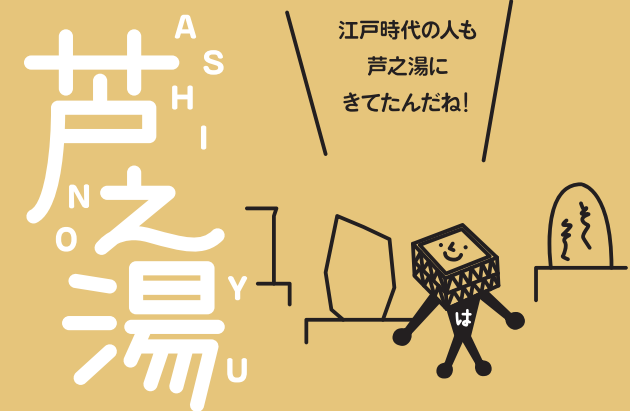
令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)を活用して作成しています。

芦之湯では、すでに鎌倉時代には温泉が湧き出していたことが、当時の記録からわかっています。ただ、そのころは「あしのうみ」と呼ばれ、葦が一面に生い茂る湿地帯だったといわれています。

その後、江戸時代には温泉場が開かれ、「箱根七湯」のひとつとして知られるようになりました。

明治37年(1904)に車道が開通すると芦之湯は人気の保養地となりました。

現在でも、江戸時代の面影を残す落ち着いた温泉地でゆっくりした時間を過ごしましょう。



- 1 東光庵・熊野権現旧跡
- 2 阿字ヶ池弁財天
- 3 芦之湯三碑
- 4 国道開鑿の碑
- 5 箱根ドルハウス美術館
- 6 湯坂路と瀧坂路

全長 4km 所要時間約 60分

みどころ 東光庵



江戸時代の文化人が集まるサロンのような東光庵を平成13年に復元したもの。敷地内には多くの歌碑・句碑が残され、多くの文人たちがここで交流していた様子がうかがえます。

1 石仏群と歴史館

国史跡元箱根石仏群のガイダンス施設です。館内には元箱根石仏群の歴史や、各石仏・石塔についての解説など、石仏群を見学する助けとなる情報が得られます。

また、石仏群見学後に、周辺に残る史跡を散策できるように散策コースの案内も行われています。

館内の休憩スペースからは精進池・駒ヶ岳・二子山などが一望でき、四季折々の風景を楽しむことができます。

利用案内
開館日：年中無休
開館時間：10:00~16:00
入館料：無料
駐車場：乗用車35台・大型バス2台
(料金：無料)
設備：展示室、休憩室、トイレ



3 応長地蔵 (石造地蔵菩薩立像3体)

昭和49年6月8日重要文化財指定
3体の地蔵菩薩像が彫られた岩。左側に銘文が彫られていて応長元年(1311)につくられたことがわかります。かつて宮城野では、家族で亡くなった人がいると四十九日以内にここに来て、送り火を焚く「浜降り」の風習があったそうで、別名「火焚き地蔵」とよばれています。



7 曾我兄弟・虎御前の墓 (石造五輪塔)

昭和28年8月29日重要文化財指定
巨大な3基の五輪塔が国道1号沿いに並んでいます。曾我兄弟の墓といわれる左の2基には地蔵菩薩が浮き彫りになっていて、地蔵信仰から建てられたことがわかります。曾我兄弟は鎌倉時代の武士で、父の仇・工藤祐経を討ったことで有名です。向かって右側に立つ「虎御前の墓」と呼ばれる五輪塔の地輪に刻まれた銘文には、永仁3年(1295)に、地蔵菩薩を信仰する人々たちによる「地蔵講結縁衆」が、それぞれの「平等利益」を願って建てたと書かれています。虎御前は曾我兄弟の兄と恋仲だったと伝えられています。この3基の五輪塔が建てられたのは曾我兄弟が亡くなったから100年もたったのちのことなので、曾我兄弟の墓であるかは定かではありませんが、江戸時代の紀行文などには「曾我兄弟の墓」と記されているのです。



2 六道地蔵 (石造地蔵菩薩坐像)

昭和49年6月8日重要文化財指定
巨大な転石に彫られた高さ3.5mの地蔵菩薩坐像。坐像の左に彫られていた銘文に、正安2年(1300)と刻まれていて、鎌倉時代後期を代表する磨崖仏です。銘文は現在はすり減って見えません。平成9年(1997)に復元された覆屋は、室町時代の覆屋を再現しており、幅4.5m・奥行き7.1m・高さ9.2mあります。



4 八百比丘尼の墓 (石造宝篋印塔残欠)

800年生きたといわれる「八百比丘尼」の墓といわれています。江戸後期の「七湯の枝折」にもそのように書かれています。現在は基礎部分が残っていて、塔身から上はなくなっていますが、基礎部分に室町時代初期、観応元年(1350)と記されています。



5 多田満仲の墓 (石造宝篋印塔)

昭和36年3月23日重要文化財指定
多田満仲は、平安時代の武将で、源頼朝の先祖です。この塔は、その満仲の墓といわれています。宝篋印塔とは、中世には五輪塔と並んで多く建立された供養塔です。この塔の造立には奈良県の石工や、同じ奈良の西大寺から鎌倉極楽寺住職となった「良観(=忍性)」らに関わったと考えられ、関西と関東の様式をあわせた造りになっています。



6 二十五菩薩 (石造阿彌陀如来立像25鉢)

昭和49年6月8日重要文化財指定
巨大な岩塊に数多くの石仏が彫られているのが「二十五菩薩」と呼ばれる石仏群です。国道1号をはさんで西側に23体、東側に3体、合わせて26体の仏像が彫られています。西側の地蔵菩薩の脇に永仁元年(1293)と銘文が刻まれているので、その時から少しずつ彫り進められたと考えられています。



芦之湯の史跡をめぐる旅
芦之湯バス停 鎌倉古道へ
湯坂路 (鎌倉古道)
芦ノ湖 湯本へ

6 湯坂路と瀧坂路

湯坂路は鎌倉時代に開かれた道です。源頼朝をはじめ鎌倉幕府の武将たちが、箱根権現(箱根神社)に参拝するようになり、その参詣道として湯本から湯坂山・浅間山・鷹巣山の尾根を伝って、芦之湯から芦ノ湖畔に抜ける道ができました。江戸時代になると須雲川沿いに東海道を整備したため廃れてしまいました。その後、箱根七湯を結ぶ「七湯道」、畑宿から飛龍の滝を通して芦之湯に抜ける「瀧坂路」が整備されて、再び、芦之湯へ多くの人を訪れるようになりました。



4 国道開鑿の碑

明治37年(1904)に、宮ノ下から芦之湯温泉を経て芦之湯湖畔まで通じる国道が整備されたのを記念する碑です。この工事は予想を超える難工事で、大変な苦勞の末、完成しました。これが現在の国道1号です。



5 箱根ドールハウス美術館

平成29年(2017)にオープンした美術館。世界中から貴重なドールハウスのコレクションが展示されています。美術館内にはカフェやミュージアムショップも併設されています。



1 東光庵・熊野権現旧跡

芦之湯温泉の守り神・熊野神社。その境内に復元された東光庵があります。東光庵は薬師堂につけられた名前です。温泉はもっぱら湯治に利用されたので、同じく病をいやす薬師如来も温泉場で祀られ、各地で薬師堂が建てられました。江戸時代の文化人は芦之湯を訪れた折に、この薬師堂に集まって句会や茶会を楽しんだといわれており、境内には、松尾芭蕉などの歌碑・文学碑が残されています。また、安藤広重は芦之湯を訪れ、「箱根七湯図会」の中でこの東光庵を描いています。



3 芦之湯三碑

芦之湯ゆかりの3基の石碑があります。恩人碑、あす宣言の碑、朝日ヶ丘旧石器遺跡の碑です。

恩人碑
江戸時代、雨森宗真が湯治に芦之湯にやってきたときのこと、ここで知り合った男に借金を背負わされてしまいました。その借金を堺屋嘉兵衛という人が、肩代わりしてくれたそうです。その後、宗真は医者となりました。20年後、その時の恩を返そうと思い、芦之湯を訪れましたが、すでに嘉兵衛はなくなっていました。その感謝を碑に込めて恩人碑を作ったと伝えられています。



2 阿字ヶ池・阿字ヶ池弁財天

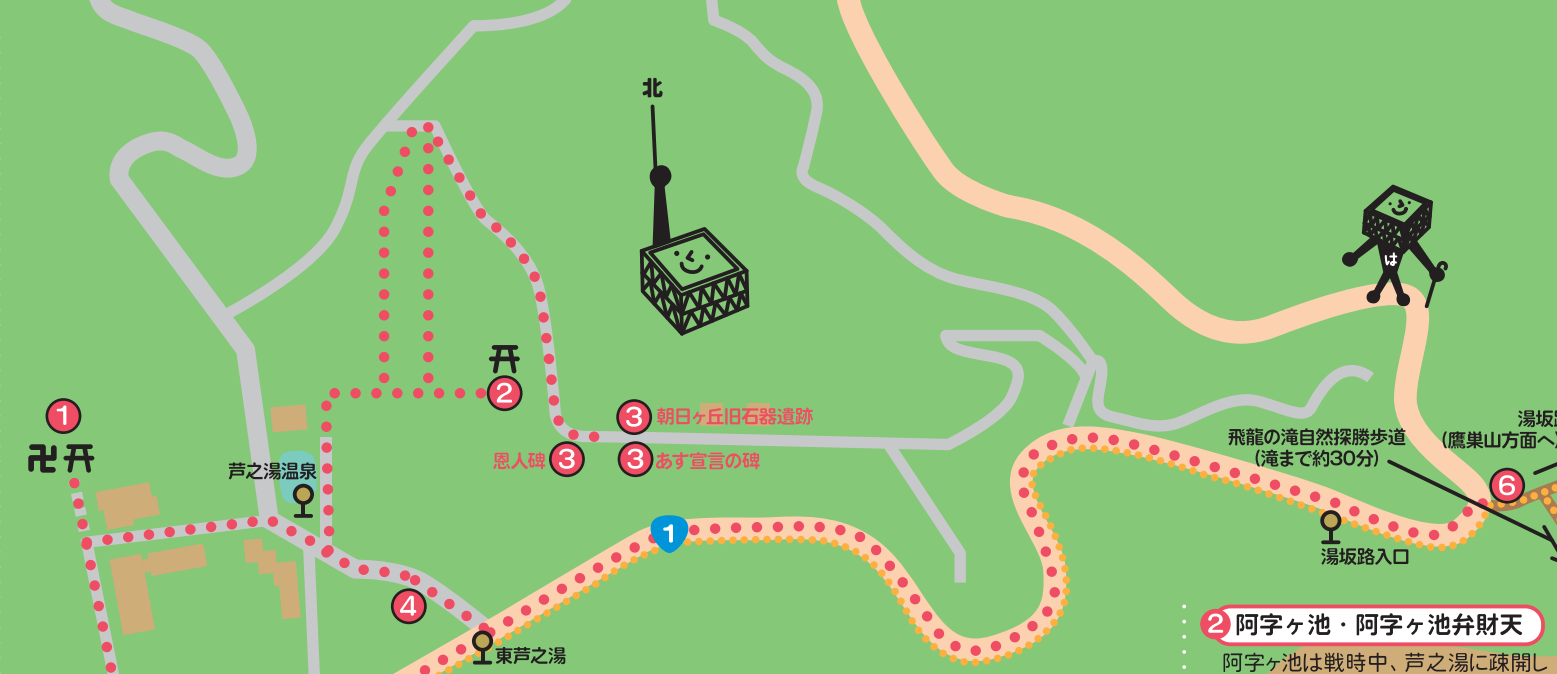
阿字ヶ池は戦時中、芦之湯に疎開していたドイツ兵が防火用水として掘ったものが原型となっています。阿字ヶ池という名前は、このあたりが「あしのうみ」と呼ばれ、葦の生い茂る湿地帯だったことに由来します。湿地の奥には古くからこの地に祀られていた弁財天があります。そばにある石碑には江戸時代中ごろ、延享元年(1744)に再興されたと書かれています。



あす宣言の碑
壮大な「アス理論」に賛同した中曾根康弘元首相や、小説家・獅子文六、版画家・棟方志功など芦之湯ゆかりの文化人によって建てられました。



朝日ヶ丘旧石器遺跡
昭和36年(1961)、黒曜石でできた石器が出土しました。この時に、旧石器時代のナイフ型石器も出土しました。このことを記念して建てられたものです。



ASHI
NO
YU
湯

SHOJIN
KE
MOTO
HACONE
SEKIBUN
GUN
石元箱根群